PRESS RELEASE

2025 年 9 月 25 日
株式会社 ispace
株式会社 ElevationSpace

ispace と ElevationSpace、民間による日本初月面サンプルリターンミッション実現に向けた基本合意書を締結

株式会社 ispace（東京都中央区、代表取締役：袴田武史、以下 ispace）（証券コード 9348）は、宇宙空間で研究開発した物資を地球に持ち帰るための大気圏再突入・回収技術に挑む株式会社 ElevationSpace（宮城県仙台市、代表取締役：小林稜平、以下 ElevationSpace）との間で、月面サンプルリターンミッションの実現に向けた技術開発および事業機会創出に関する基本合意書を締結したことを発表しました。

大気圏再突入カプセルのイメージ画像　提供：ElevationSpace

本合意に基づき、ispace と ElevationSpace は月面サンプルリターンの早期実現を目指した活動を共同で進めます。ispace は 2023 年および 2025 年に挑戦した二度の月ミッションを通じて、月周回軌道へランダーを投入する技術を既に実証済みであり、現在、保有する月着陸船（ランダー）の開発技術から派生して開発される軌道間輸送機（Orbital Transfer Vehicle、以下 OTV）の開発を検討しています。

ispace が開発の検討を進めている軌道間輸送機（OTV）のコンセプトイメージ画像

今回の協業では、この OTV と ElavationSpace が開発を行う、サンプルリターン用大気圏再突入カプセルを適用したミッションの実現性の検証およびシステム全体の特性評価を目的とした技術実証を行います。並行して、将来、日本初となる月面サンプルリターン事業機会創出に向けて、国内外の政府・宇宙機関や、民間の様々な潜在顧客に対して協力してコミュニケーションを積極的に行う予定です。

■ 株式会社 ispace 代表取締役 CEO & Founder 袴田武史のコメント

「月面サンプルリターンは、宇宙政策委員会の議論の中でも「月面の 3 科学」の 1 つに設定されている重要なテーマであり、また当社が、"Expand Our Planet, Expand Our Future"のビジョンの元で実現を目指す、シスルナ経済圏構築においても不可欠な技術と考えています。ElevationSpace 社が進める再突入・回収に係る技術は、月面サンプルリターンを実施するためのキー要素技術であり、当社が開発する月へペイロードを届ける輸送機や運用技術と組み合わせることで、早期実現に近づくと確信しています。引き続き、関係機関と緊密に連携して、関連する技術開発や事業機会創出に向けた活動を邁進してまいります。」

■ 株式会社 ElevationSpace 代表取締役 CEO 小林稜平のコメント

「私たちが培ってきた大気圏再突入・回収技術と、ispace 社の月面着陸・探査技術を融合させることで、日本初となる月面サンプルリターンの実現に挑戦できることを大変嬉しく思います。本取り組みは、科学的・産業的な価値を新たに創出すると同時に、私たちが掲げる『軌道上のヒト・モノをつなぐ交通網を構築する』というビジョンに直結する、歴史的な挑戦です。両社の技術と経験を掛け合わせ、月と地球を高頻度に往来できる新たな時代を切り拓いてまいります。」

■ **株式会社 ElevationSpace（https://elevation-space.com/company）について**

ElevationSpace は「軌道上のヒト・モノをつなぐ交通網を構築する」をビジョンに掲 げ、日本が世界に誇る小型衛星による再突入技術を軸に宇宙から地球への輸送サービス開 発に取り組んでいるスタートアップ企業です。東北大学や JAXA と連携し、宇宙の微小重 力環境で研究開発・製造された物資を地球に運ぶ小型宇宙機の開発に取り組んでいます。

これまで基礎科学的な実験から産業利用まで幅広く利用されてきた国際宇宙ステーション（ISS）は、構造寿命などの関係から 2030 年末に運用を終了することが決定しており、宇 宙環境利用の”場”の継続的な確保が課題になっています。ElevationSpace は「ポスト ISS 時代」を見据え、フリーフライヤー型の軌道上実証・回収衛星「ELS-R（読み：イー エルエスアール）」や、宇宙ステーションからの高頻度回収カプセル「ELS-RS（読み： イーエルエスアールエス）」の提供を目指しています。「ELS-R」は、無重力環境を生か した実験や実証を、無人の小型衛星で行い、それを地球に帰還させてお客様のもとに返す 国内初のサービスです。

■ **株式会社 ispace（https://ispace-inc.com/jpn/）について**

「Expand our planet. Expand our future. ~人類の生活圏を宇宙に広げ、持続性のある世界へ~」をビジョンに掲げ、月面資源開発に取り組んでいる宇宙スタートアップ企業。日本、ルクセンブルク、アメリカの 3 拠点で活動し、現在約 300 名のスタッフが在籍。2010 年に設立し、Google Lunar XPRIZE レースの最終選考に残った 5 チームのうちの 1 チームである「HAKUTO」を運営した。月への高頻度かつ低コストの輸送サービスを提供することを目的とした小型のランダー（月着陸船）と、月探査用のローバー（月面探査車）を開発。民間企業が月でビジネスを行うためのゲートウェイとなることを目指し、月市場への参入をサポートするための月データビジネスコンセプトの立ち上げも行う。2022 年 12 月 11 日には SpaceX の Falcon 9 を使用し、同社初となるミッション 1 のランダーの打ち上げを完了。続くミッション 2 も 2025 年 1 月 15 日に打上げを完了した。これらは R&D（研究開発）の位置づけで、ランダーの設計および技術の検証と、月面輸送サービスと月面データサービスの提供という事業モデルの検証および強化を目的としたミッションであり、結果、ispace は月周回までの確かな輸送能力や、ランダーの姿勢制御、誘導制御機能を実証することが出来た。2027 年には[i]、米国法人が主導するミッション 3（正式名称：Team Draper Commercial Mission 1）の打ち上げを予定しており、ミッション 1、2 で得られたデータやノウハウをフィードバックした、より精度の高い月面輸送サービスの提供によって、NASA が行う「アルテミス計画」にも貢献する計画。さらに、同年、経産省 SBIR 補助金を活用し、現在日本で開発中のシリーズ 3 ランダー（仮称）を用いたミッション 4（旧ミッション 6）の打ち上げを予定している。

[i] 2025 年 9 月時点の想定

本リリースに関するお問い合わせ

ispace 広報：PublicRelations@ispace-inc.com

ElevationSpace 広報：pr@elevation-space.com